

百済王族伝説の証 師走祭り

(記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財、文化庁選択)

古より連綿と続く“師走祭り”は、百済王族伝説の証とされ、1300年余もかたくなに守り継がれてきた。

90キロメートルを隔てた美郷町南郷の神門神社と木城町の比木神社が合同で齋行する極めて特異な形式の祭りであり、異国の地で離ればなれに祀られている百済王族の親子（神門神社に祀られる父禎嘉王と比木神社に祀られる長男福智王）が年に一度対面する。

御神幸が神門に到着する初日、夕闇がせまる時間になると、神門神社付近で約30基のやぐらが天をも焦がさんばかりに燃え盛り、御神幸を迎える。その中を一行は感激の面持ちで神社本殿へと向かっていく。そして、オサラバまでの3日間、地域は百済伝説に彩られる。

本殿が国の重要文化財に指定されている神門神社には多数の宝物が保管されていた。百済王族伝説の信憑性を高めるこれらの宝物は西の正倉院に展示されている。

百済王族伝説と文化財

〈神門神社本殿〉重要文化財、文化庁指定

神門神社は養老2年（718年）創建と伝えられ、禎嘉王を祭神としている。本殿は寛文元年（1661年）に建立された七間社流造の社殿であり、文化庁から重要文化財に指定されている。

〈神門神社の鏡鑑〉宮崎県指定文化財

神門神社の宝物には百済王族の遺品と称される銅鏡や馬鈴、馬鐸などがある。特に宮崎県指定文化財である古来の銅鏡24面の中には奈良正倉院の御物と同一品のものがある。これらの宝物は神門神社社務所に隣接する西の正倉院に展示されている。

〈塚の原古墳・ドンタロ塚〉宮崎県指定文化財

百済が滅亡し、日本の畿内地方にのべられた王族は、さらに壬申の乱によって日向の国へとのがれてきた。追討軍との攻防戦で戦死したとされる禎嘉王の墓と伝えられているのが塚の原古墳である。また、ドンタロ塚は神門神社境内地山頂にあり、禎嘉王を助けた地元豪族の墓ともいわれる。ドンタロさんは百済王族を歓迎し、追討軍との戦いにも味方として加勢したといわれている。

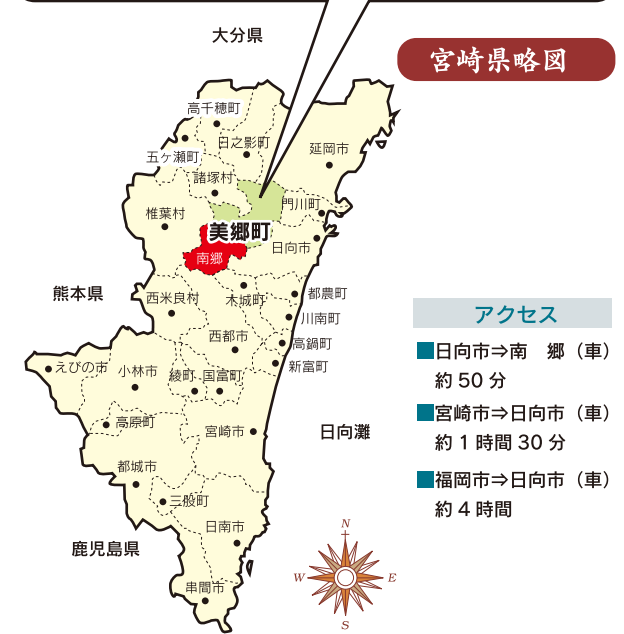
1300年の歴史が物語る 師走祭り

伝説の百済王族父子の絆

令和6年

1月19日~21日

百済の里・美郷町



百済の里・美郷町

お問い合わせ先

美郷町役場南郷地域課
師走祭り実行委員会

〒883-0306宮崎県東臼杵郡美郷町南郷神門287
TEL.0982-59-1600 FAX.0982-59-1119
URL <http://www.town.miyazaki-misato.lg.jp/>